

第5WG(産業とイノベーション・システムGからの問題提起 (WGリーダー 安永裕幸(UNIDO東京事務所長))

【全体論】

- 今、強く問うべきは「これでいいのか？ このままでいいのか？」ではないか？
「これまでと比べてだいぶ変化した」のは事実だが、世界の中で戦えるのか？

【各論(問題提起)～日本のイノベーションに足りないもの(私見)～】

- **人材**が足りない。
- **おカネ**が足りない。
- **ダイナミズム**と**オープンネス**が足りない。
- **オリジナリティ**が足りない。
- 「**世界の課題解決**への貢献」という視点が足りない。

【各論(問題提起)に対する試論】

- **人材が足りない。**
 - ・日本人は減る。優秀な外国人留学生を呼び込み、継続的に活躍してもらう仕組みを。(例えば、国研OBを途上国での人材育成(科学技術教育)に大量派遣し、若手を逆スカウト。)
 - ・日本は先進国の中で女性の社会参画が最低水準。女性の参画を更に活性化する仕組みを。
 - ・日本人の博士課程進学者への経済的・社会的インセンティブ(学費全額免除・採用保証等)を。
- **おカネが足りない。**
 - ・国立大学の交付金の「毎年1%減」をどう値切るか、ではなくデカイ話を。国に最早カネは無い。企業資金を増やすため減税・免税措置を。企業も長期の投資と考えて大きな資金を。
 - ・産総研の「冠ラボ」のようなダイナミックな取組みを各大学・国研でも。
- **ダイナミズムとオープンネスが足りない。**
 - ・大学・国研→企業への移籍・出向者に金銭的メリットを。
 - ・大企業における「FA制度」の創設とスピンアウト起業へのインセンティブを。
 - ・ICTを用いて人材のバーチャル流動化を。例えば週3日大企業、1日NGO、1日は中小企業。
- **オリジナリティが足りない。**
 - ・「現場の問題にサイエンスのメスを深く入れ、工学的に解決する」研究課題を懲憑。
 - ・「流行りもん」でない成熟技術に、新しい視点を掛け合わせた研究課題を懲憑。
- **「世界の課題解決への貢献」という視点が足りない。**
 - ・真にSDGsを実現するための課題に取り組む研究者はまだ少数。大きなインセンティブを。(「現場に足を運び」「手を汚す」研究者が激減しているのではないか?)
 - ・研究成果の社会実装を進めるため、開発途上国への実践協力(@現場)を行う若手研究者には、例えばその後の処遇面でのインセンティブ(テニュアトラックへの優先等)を。